学校だより
NO　15
R7　2/14

敬　愛（けいあい）

学校教育目標
一人一人の個性を伸ばし，自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校
編集　校長　山本成利

『残心（ざんしん）』をとる！がんばれ３年生！！

朝晩はまだまだ厳しい寒さが続いていますが，日の出は早くなり，日の入りが遅くなってきました。春が着実に近づいて来ていることを実感します。これからは，厳しい寒さの日だけでなく，三寒四温を繰り返しながら春へと向かっていくことを感じています。先週末には新入生説明会を実施させていただきました。２年生の学年合唱の披露からスタートし，中学校生活について６年生の児童と保護者の方々にお話しを聞いていただきました。（６年生の児童のみなさんは素晴らしい態度で，たいへん立派でした）保護者の皆様方には，お忙しいなか，参加していただき，誠にありがとうございました。６年生の児童のみなさんの本校への入学を心よりお待ちしています。

さて，『残心（ざんしん）』という言葉があります。多くの人にとってなじみのない言葉かも知れません。でも，剣道部の生徒や柔道部の生徒など武道をしている生徒は，学んだことがあると思います。この言葉は，武道の言葉として古くから伝わる言葉です。現代では，剣道などの稽古中に使う言葉ですから，一般的には知らなくてあたりまえだと思います。この言葉のように，日本人は，様々な分野において，伝統的な武道や芸道から生まれた言葉を活用しています。知っておくと役に立つと思います。

さて，『残心』の言葉の意味ですが，文字通り「心を残す」ということです。しかし，「心残り」という意味ではありません。例えば，剣道などで言うと相手を正確に打っただけでは，有効な「一本」にはなりません。打っただけではだめなのです。打った後も姿勢を崩さずに，気力は途切れさせず，相手の次のどんな攻撃に対しても対応できる心構え，気構えがあること・・・，これが剣道などで一本を取るための重要な要素であり，『残心』なのです。つまり，剣道では，相手を打つことが目標になるのですが，相手を打った後，「放心（ほうしん）状態」になってはいけないということなのです。このように考えると，『残心』とは『放心』の逆という意味と考えてもいいかもしれません。

これを現在の３年生に応用してみます。現在３年生は，入試に挑戦しています。私立の推薦入試，公立の前期入試が終わり，私立の一般入試もあと数校，昨日までは学期末テスト，そして来月には公立の後期入試等と続いていきます。また，少しずつ合格の内定や不合格の結果が届いてきています。２月７日（金）には前期入試の合格内定者の発表がありました。このような時期だからこそ，結果がどうであれ，放心状態になってはいけないのです。

最終的に合格したり，成長したりする人は，ここで崩れないのです。それぞれの立場で，自分を見失わずに，「今すべきこと」や「次にすべきこと」を考えて行動していってほしいと思います。『残心』とは，勇気をだして挑戦した後も気力を途切れさせず，「放心状態」にならず，「さあ来い！」「さあ行くぞ！」という気概で，自分自身を崩さないようにすることです。合格内定をもらった人は，うれしさでいっぱいですが，その結果は自分の力だけでなしえたものではありません。みなさんは，これまで，仲間とのチームワークと絆でここまできたのです。「３年生全員の進路決定・全員合格」という目標に向かって，最後まで全員で頑張りましょう。

だからこそ全員がそれぞれの立場で「今からの自分はどういう態度でいるべきなのか」をしっかりと考えてほしいと思います。一人一人の人間性が問われるときでもあるのです。

不本意な結果の場合もあります。しかし，全力で頑張ってきた自分を否定することはありません。ましてや自信を失うなどとは考えてほしくないです。そんなことでは，今までの努力も無駄になります。

今回の結果は，進路確定までの通過点に過ぎないわけですから，合格内定，不合格を問わず，全員合格達成，全員の進路決定までは「自分ができること，すべきこと」を判断し，最善の努力を続けていきましょう。

最後まで，みんなで気力を発揮していきましょう。最後まであきらめず，転んでも立ち上がり，全員のつながる力を発揮して「不撓不屈（ふとうふくつ）の精神」＝「何があっても覚悟をもって最後まであきらめない心」で前進することこそ，『敷中生』の姿です。頑張っていきましょう！

負けないことは立派

負けたことに負けないことは　なお立派

厳しい冬の後には，うららかな春が来ることを信じて，３年生みんなで，入試を乗り越えていきましょう！

子育て談話室④～根源的な倫理観育む，「形」や効率追求だけでなく～

現代社会は，情報があふれて，何が正しくて，何が価値あることなのか，どういうことが不易なのかなど，とてもわかりにくい時代となっています。この難しい時代に，“子育て”という一大事業を行っている保護者の皆様方に，私なりに大切にしたほうがいいと考える『子育てのポイント』を提案させていただくのが，このシリーズです。お付き合いの程よろしくお願いいたします。次のような文章を見つけました。ご一読ください。

今回は，昨年一年を振り返って，教育に関わる立場として今強く感じていることを述べたいと思います。世界に目を向ければ，いまだに戦争が続いている国々があります。国内でも明るいニュースもたくさんありますが，残念ながら悲しい事件もたくさん起こっています。その原因は，もちろん多岐にわたりますし，多くの要素が複合的に絡み合っているのでしょう。ただその中でも一番大きい要因は，「人としての在り方に関する教育を軽視している」ことだと感じます。

子どもたちを取り巻く環境は，学力や技術などの習得に重きが置かれています。また大人にも，交流サイト（ＳＮＳ）の利用の仕方に見られるように，自己顕示欲や承認欲求に重きを置く傾向が見られます。そういった目に見える「形」に重きを置き，学歴や出世などの「形」を手に入れるため，という打算的な動機に支配された行動や考え方が，親子共に多くなっているように感じます。

ですから，欲しかった結果が手に入らないと極端にネガティブに考えたり，逆に結果が手に入っても，もうこれで大丈夫と考えてしまって，その後に道を踏み外したりするケースが増えているのではないでしょうか。情報過多な世の中で，ノウハウを求めるニーズが高まり，効果や効率が優先されていることも，この傾向を助長しています。

「形」を重視する前に，プリミティブ（根源的）な倫理観を育むことに，もっと力を入れるべきです。「誠実」「謙虚」「感謝」「公正」「博愛」「勇気」といった，時代を超えて人として大切にするべき価値観を育てることができれば，一時的な感情や狭い視野だけで，結果として不幸せな方向に進むことへの歯止めになるはずです。

私は子どもたちに指導を行う立場ですから，ある意味，子どもたちが「形」を手に入れるための教育をしているとも言えます。しかし，だからこそ視野を広げてもらわなければなりません。子どもたちの世界を広げ，さまざまな視点で物事を考えられるようにするためには，まずは人としてのあるべき倫理観や土台を育てなければならないのです。

子どもたち，そして未来社会全体の幸せのために，教育で何を重視すべきか。大人は深く考える必要があると思います。

（著：黒田耕平）